Operation Raleigh News

Operation Raleigh DENSO

No.26

昭和61年(1986)12月5日(金)
毎月1回発行

●発行所　オペレーション・ローリー日本委員会
〒104 東京都中央区築地1−7−10 築地オーミビル502号
電話　東京(03)544−7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装㈱のご協力で制作されたものです。

フィヨルド地帯での活動に重点

ニュージーランド・フェイズ パートII

12月19日から来年3月10日までの予定で陶山佳久君、杉浦香代里さん、坂根正孝君、岩崎康子さん、郡由起子さん、井田浩二君の6人がニュージーランド（パートII）フェイズに参加しますが、その活動概要について、英国本部からの指示書はつぎのように述べています。

●概略日程●

12月20日〜27日	クライストチャーチに到着。マナポウリへ移動。Xマスパーティー開催。
12月28日	リーダーの指示で各プロジェクト地へ出発。
3月6日	ベースキャンプに戻り、後片づけ。
3月9日	クライストチャーチへ。
3月10日	それぞれ空路母国へ。

●科学活動●

■フィヨルドで海洋生物採集
フィヨルドの海で無脊椎動物を採集し、それらが腫ように効くかどうか調べるもので、カンタベリー大学が提案したプロジェクトです。

■沈殿物の地質化学調査
約200種類の川の沈殿物を採集し、地質化学プログラムの一端を担当します。

■川と水の相互作用調査
フィヨルドに流れこむ川に沈殿物測定器や温度計をつりさげ、川がフィヨルドにどのような影響を与えているか調査します。

■フィヨルドの野生動物調査
ヘリコプターで未踏のフィヨルドに入り、悪天候の中で野生動物調査を行ないます。

★カカポ（夜行性オオム）の調査
★鳥類、トカゲ、ヘビの分布記録
★絶滅の危機にある野生動物の調査
★野生動物の分布をボートで探査

■コマドリの調査
ダート川流域でコマドリの生態調査

●冒険活動●

■フィヨルド公園内探検
谷あり、山ありのさまざまな困難が待ち受けているフィヨルド公園内探検旅行です。

■ダイビング・プロジェクト
ワナカ湖の雑草除去作業や難破船探査などのスキューバ・ダイビングのプロジェクトも予定されています。

■アドベンチャー・スポーツ
湖でのカヌー漕ぎ、筏づくり・川下り、ジェットボートなども用意されています。

●奉仕活動●

■自然教育センターの手伝い
サウスランドの子供たちのためのフィヨルド自然教育センターでボランティア活動をします。

■気象学プログラム
ニュージーランド気象サービスのために、各地に散らばっているベンチャラーたちが無線で自分の地点の天気を報告します。

■自然歩道の整備奉仕
ニュージーランドの自然を楽しむための歩道づくりを手伝ったり、境界線にフェンスをつくったり、建物の整備を行ないます。

■ワナカ湖の雑草調査
ワナカ湖の有害な雑草の繁殖状況を潜水して調べ、コントロールするための資料づくりを行ないます。

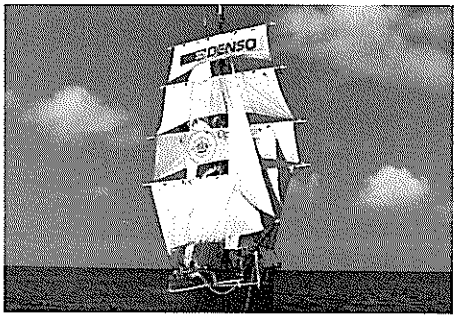
■古い鉱山会社の保存
1897年に設立された廃鉱を歴史遺産として保存するため協力します。

ゼブ号来春2月〜4月

沖縄・名古屋・大阪へ

来春、日本を訪問する帆船ゼブ号のスケジュールは2月中旬グアム島を出航、沖縄諸島を経て、3月21日名古屋港に入港する予定です。グアム島からゼブ号に乗るベンチャラーは日本代表の戸島仁嗣君、渡辺美和さんを含む16名。沖縄、名古屋などで盛大な歓迎を受けたあと、4月4日に大阪港に寄港し、日本フェイズのオープニングセレモニーに参加します。

この後、ゼブ号は大阪で乗船メンバーを入れ換え、オーストラリアのダーウィンへの航路をとります。16名のベンチャラーの中には、山本久仁子さん、飯塚敏晃君のふたりが日本代表として選ばれています。



日本フェイズ参加者募集

オペレーション・ローリー日本フェイズは来春4月5日から7月5日までの日程で知床半島、東海自然歩道、西表島などを舞台に展開されますが海外からの参加青年100名とともに活動する日本人青年20名の募集が開始されました。

募集の内訳は北海道プログラム5名、本州プログラム10名、沖縄プログラム5名となっています。

詳しくはORJC（電話：東京03−544−7413）へ問い合わせること。

2　月

24日　第１回ＯＲＪＣ実行委員会開催（1986年次募集要項決定・審査基準検討）

3　月

7日　第１回ＯＲＪＣ開催（1986年次募集要項承認）
1986年次派遣青年募集開始
20日　（～21日）1986年次代表青年日本電装訪問

4　月

1985年次チリフェイズ帰国（高柳俊成くん、鈴木昭くん、吉田靖くん、加藤麻岐さん）
ソロモンフェイズ出発（渡辺道雄くん、来住南輝くん、土居雅紹くん）

5　月

2日　パプアニューギニアフェイズ出発（長谷川秀司くん、山田穂積くん、中山勝博くん）
9日　オーストラリアフェイズ第１陣出発（鈴木治弘くん、安田清和くん、藤本圭太くん、福井健くん、金田千寿さん、谷廉子さん）
11日　ＯＲ日本委員会メンバー、日本代表青年14名、チャールズ皇太子と会見

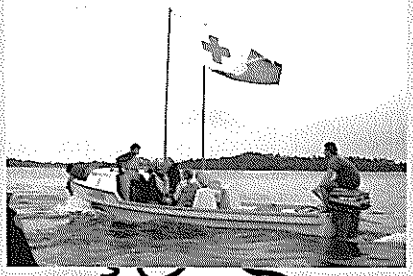
31日　1986年次ＯＲ日本代表青年募集締め切り（応募総数905名）

6　月

ソロモンフェイズ帰国
20日　1986年次ＯＲ日本代表青年第１次合格者528名決定

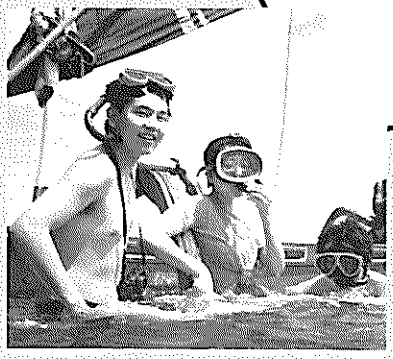
アドベンチャースピリ

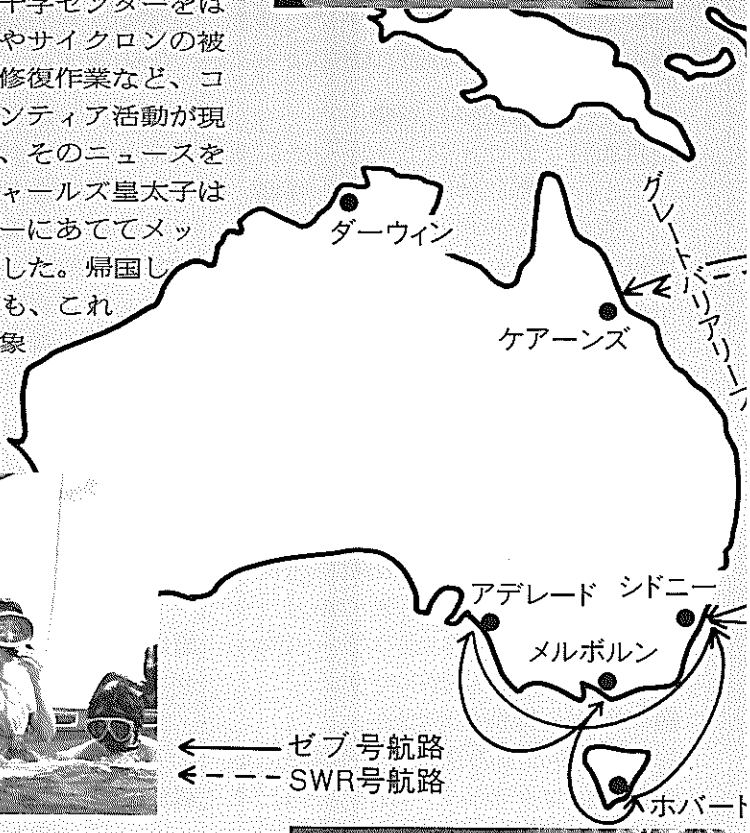
オペレーションローリーの活動は、て展開しました。ソロモン諸島・パプニュージーランドといったオセアニアしい発見や可能性を求めて日本から代かで全力を尽くし、数々の成果をあげ動の様子から、1986年を振りかえって



ソロモンフェイズ

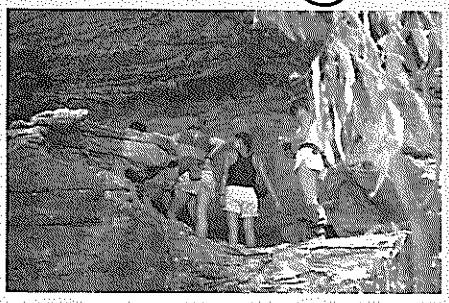
当初の予定に１ヵ月遅れて出発した３名は、シドニーからの乗り継ぎに失敗、たまたま遅れていたロンドンからの本隊と合流して、現地に到着するという波乱ぶくみのスタートでしたが、熱帯雨林調査やニュージョージア島での考古学調査などの科学的プロジェクトをはじめ現地のプロジェクトは大成功を収めました。特に、国際赤十字社の協力のもとにギゾーに建設した赤十字センターをはじめ、クリニックやサイクロンの被害にあった民家の修復作業など、コミュニティ・ボランティア活動が現地で高く評価され、そのニュースをお聞きになったチャールズ皇太子は現地のベンチャラーにあててメッセージを送られました。帰国した日本人メンバーも、これらの奉仕活動の印象を熱っぽく語ってくれました。





オーストラリアフェイズ

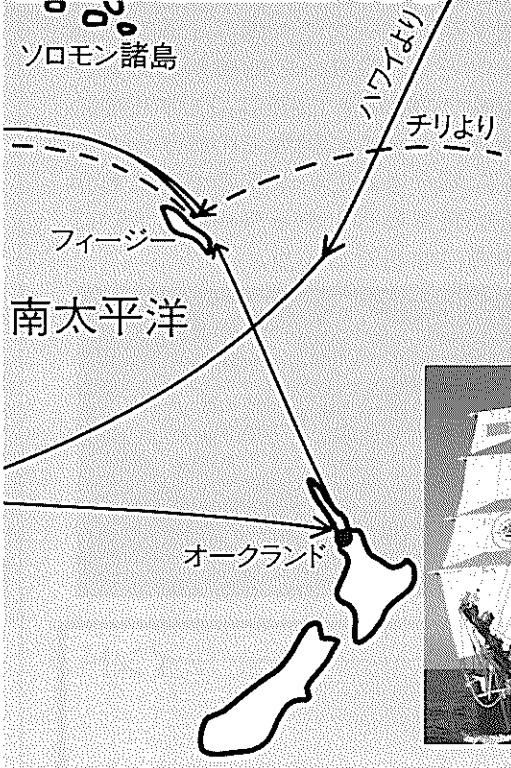
５月に出発した第１陣は、ダーウィンを中心としたオーストラリア北部（ノーザンテリトリー）の恵まれた設備のなかで、のびのびと活動しました。世界各国から集まった仲間たちばかりでなく、共同生活を通じて原住民との交流に大きな意義を感じて帰国したベンチャラーの、『人間はどこまでも人間だ』という感想が象徴的でした。彼らはクリスマスクリークでの考古学調査や、アーネムランドのバッファローの生態調査などの



科学的プロジェクトをはじめ、国定公園内での山道作りや、修復作業の奉仕活動に参加し、言葉や文化の違いにとまどいながらも、それぞれが新たな自己との出会いを体験しました。期間中、ＯＲ英国本部評議会副議長のスネル氏が現地を訪れたことも彼らを感激させました。

小よ永遠に ～1986年を振り返る～

年も日本国内外を通じて多岐にわたっ
ニューギニア・オーストラリア北部・
舞台にした各フェイズには、自己の新
青年30名が参加し、慣れない環境のな
した。各地のベンチャラーの表情や活
ましょう。

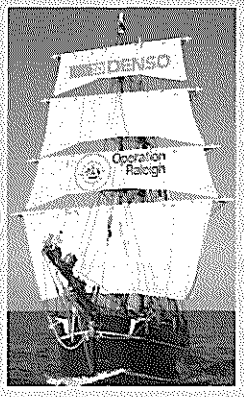


パプアニューギニアフェイズ

日本人ベンチャラーたちは、日本とはまったく異なった環境と厳しい自然に苦しみながらも、熱帯雨林やワニの生息状況の調査などの科学的プロジェクトや、水資源開発（井戸掘り）や児童福祉施設の整備などのコミュニティ・ボランティア活動、さらに冒険的プロジェクトとして、滅亡した部族の遺跡探検や奥地のオオトカゲ調査といった内容の各プロジェクトに取り組みました。見なれない食べものに驚いたり、6月はじめに長谷川君がマラリアに感染するというハプニングがあったものの、7月には全員元気に帰国しました。

ニュージーランドフェイズ

9月に現地入りしている第1陣のベンチャラー達は、ニュージーランドの動物保護・国立公園協会のメンバーと共に登山道の建設・整備や、ブッシュの中での植物や鳥類の調査、ワナカ湖の雑草調査および除去などのプロジェクトに参加しました。彼らは、美しい自然に囲まれ、充実した日々を送っています。今月19日に日本を出発予定の第2陣も、ひき続きフィヨルド地帯での地質調査や野生動物の調査をはじめ、奉仕活動などに参加します。



続いて7月に出発した第2陣は、ケアーンズを中心にヨーク岬半島で活動しました。ダイビングやその周辺の海洋学調査および研究をおこなったグレートバリアリーフの美しさ、アボリジニーの遺跡の壁画さがし、思いがけず実現したゼブ号乗船など、どれをとってもベンチャラーたちにとって、毎日が新鮮な感動の連続でした。また、5月にチャールズ皇太子と会見し、このフェイズに参加していた高野さんに、皇太子から親書が届くというビッグニュースもありました。

ゼブ号・SWR号

昨年10月にハワイを出て、フィジー経由で12月にシドニーに入港したゼブ号は、各地で悪天候のために予定の変更を余儀なくされましたが、ケアーンズでは各プロジェクトの他に、地元の人たちとの交流に努め、日本のOR関係者によるPRフィルムの撮影もおこなわれました。一方、チリから南太平洋諸島を巡る太平洋横断の旅をしたSWR号は、ケアーンズに到着後一般公開され、市民の大歓迎をうけました。

7 月

4日　ORシンポジウム'86
『異文化間コミュニケーションの時代』（東京・プレスセンターホール）

――第2次審査――

6日　東京（高田馬場ビッグボックス）
大阪（千里セルシー）
オーストラリアフェイズ第2陣出発（宮田義明くん、加宅田和彦くん、森本作也くん、竹内京子さん、高野孝子さん、青柳なお子さん）
パプアニューギニアフェイズ帰国

8 月

オーストラリアフェイズ第1陣帰国

――第3次審査――

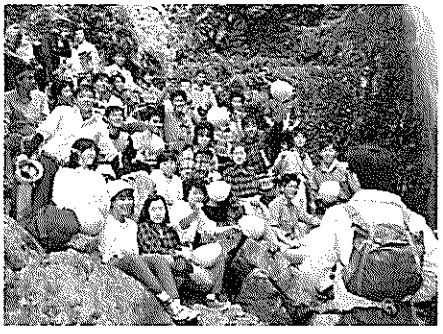
23日　（～24日）東京地区
30日　（～31日）大阪地区

9 月

5日　最終合格者決定
1986年次派遣青年合格者発表
19日　ニュージーランドフェイズ第1陣出発（月村卓也くん、松井洋一くん、川北秀人くん、河合佳代子さん、田口陽子さん）
オーストラリアフェイズ第2陣帰国

10 月

17日　1986年次派遣青年結団式
（～19日）丹沢強化合宿



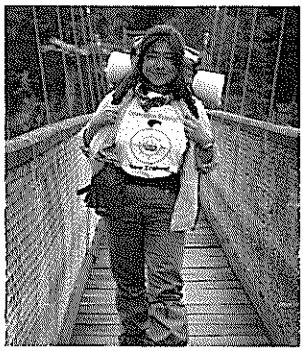
日本代表派遣青年のページ

9月からニュージーランドフェイズに参加しているベンチャラーから、近況報告の手紙が届きました。元気に現地で活躍する彼らの表情をお伝えします。

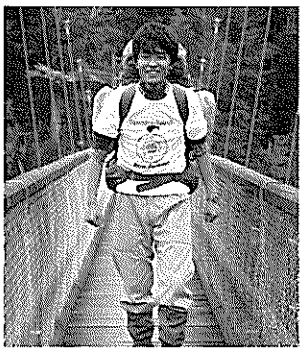
登山道づくりに参加

現在までに僕は、２つの登山道の建設・整備のプロジェクトに参加しました。想像していたよりずっと、リラックスした毎日です。これからプロジェクトのあいまに、フィヨルドを見にいこうと思っています。

（松井洋一君）



戸田さん



松井君

河合さん

ワナカ湖の雑草刈り

ほんの１時間ほど前に、ワナカ湖のプロジェクトから戻ったばかりです。ワナカ湖には、ラガロサイフォンという雑草が繁殖していて、またその成長がものすごく早いために↗↘ボートの走行や釣りなどの他、湖でのレジャーや仕事に危険がおよぶほどで、深刻な問題になっています。そこで私たちは、その雑草の除去を次の方法でおこないました。まず岸に８メートル間隔にくいを打ち、長いコードでつながれたもう一方のくいをボートで沖までいって海底に打ちます。それを繰り返してできたレーンの間を私たちが潜っていって、雑草を除去するのです。ずっと好天に恵まれ、気分は最高。このプロジェクトは、月村君たちのグループが引継いで行ないます。

（戸田美紀さん）

念願の残雪に触れる

ベースキャンプを離れて、ＵＫ、ＵＳＡ、ＮＺのメンバーと日本人の私の４人で、科学プロジェクトに参加しましたが、それぞれのお国がらが感じられるなかなか楽しいグループでした。ブッシュのなかでの植物や鳥の調査で、地図とコンパスで方向と距離を決めたら、どんな地形でも目的地めざして進むのです。続いてのプロジェクトでも、私は道なき道を進み、川や倒木を越えたりするのに苦労しながら、なんとか無事にたどりつきました。昨日は休日で仲間達と山に登り、念願の残雪に触れて大満足でした。まるで絵葉書のなかにいるような毎日ですが、新しい発見の日々でもあり、貴重な時を過ごしています。（河合佳代子さん）

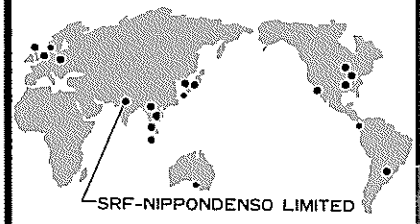
加藤さん体験を執筆

1984年次参加青年の加藤麻岐さん（琉球大学理学部４年）は、1985年末から、1986年３月にかけてチリ・フェイズに参加しましたが、その体験を『南米・チリ探検旅行』と題して、毎週１回のペースで沖縄タイムスに連載中です。ＯＲへの応募から出発、現地での活躍まで毎回1,000字程度の読物で、とくに現地での様子がリアルに紹介されていますので、これから出発するベンチャラーにも大いに参考になるでしょう。

デンソーワールドワイドオペレーションNo.14 ―― インド

多様のなかの統一。

世界第2位の人口を有するインド共和国。人種はもとより、宗教、文化、習俗などあらゆるものが多種多様で、それでいて1つにまとまっているのが不思議な国です。戦後、特に発展してきたインド。自動車の比率も人口1,000人当たり1.6台（1981年調査）と大きく伸びてきました。この国で、オルタネータ・スタータなどの製造販売を行なっているSRF-NIPPON DENSO。それは、800以上の言語をもつこの国で"技術による対話"をめざすテクノロジー集団です。



SRF-NIPPONDENSO LIMITED
所在地：Milap Niketan 8-A, Bahadur Shah Zafar Marg, New Delhi-110002, India
売上高：8千万ルピー（約10億4,000万円）
従業員：130人

DENSO
日本電装株式会社 〒448 刈谷市昭和町1-1 ☎(0566)22-3311(代)